

平成26年5月16日

羅臼漁業協同組合
代表理事組合長 田中勝博 様

知床世界自然遺産地域科学委員会
海域ワーキンググループ 座長 桜井泰憲

根室海峡におけるロシアのトロール漁船による
スケトウダラ漁業情報入手に関する進捗状況について

知床世界自然遺産登録以来、長年の懸案事項である、根室海峡の国後島側で操業するロシアのトロール漁船によるスケトウダラ漁獲データの入手に関する進捗状況を、以下のとおり報告します。

【これまでの経過】

- 平成 23 年 2 月 22 日に開催された平成 22 年度 知床世界自然遺産地域科学委員会 第 1 回海域ワーキンググループ会合において、オブザーバーである羅臼漁業協同組合の村椿前専務理事より、「これまでも根室海峡におけるロシアのトロール船の操業について、再三再四にわたって国等に働きかけをしている。しかし、いまだに禁止、廃止にはならない状況にある中で、毎年ロシアのトロール漁船の操業が確認されている。このことから、本来であればロシアのトロール漁船による操業がある程度制限されれば最も好ましいが、最低限、11 月から 12 月にかけてのロシアのトロール漁船による漁獲がどれくらいなのか教えていただきたい」、旨の発言がありました。
- これを受けて、平成 23 年 3 月、第 2 回日露隣接地域生態系保全協力シンポジウム開催準備のため、大泰司科学委員会委員長、外務省林専門官、鳥澤委員（(地独)道総研水産研究本部：以下「北水試」）がサハリン漁業海洋研究所（以下「サフニロ」）を訪問し、その時に、鳥澤委員からサフニロに対し、根室海峡において操業する日ロ双方の漁船によるすけとうだら漁業に関する漁獲情報の交換を提案しました。
- その後、北水試、サフニロ双方でデータ交換のための資料整理を進め、平成 25 年 7 月に北水試からサフニロあてに、日露隣接地域生態系保全協力プログラムが両国首脳合意の下で行われている旨も記した、データ交換申請の公式文書を送付しました。その後、サフニロは北水試からの公式文書を基に、ロシア連邦漁業庁にデータ交換の許可を打診してくれました。
- 平成 25 年 9 月、ロシア漁業庁により、本案件は日ロ漁業委員会内の問題であるため、北水試とサフニロ間でのデータ交換はできないと判断された旨、サフニロから北水試に連絡がありました。
- 北水試・サフニロ双方は、引き続き国内政府関係機関に働きかけ、この問題が日ロ漁業委員会の俎上に載るよう継続して努力することを確認しました。
- 北水試からは折に触れ、水産庁、水産総合研究センターに対し、この問題の解決に向けた協力を要請してきました。

【現在の進捗状況】

- 平成 25 年 12 月、サンクトペテルブルク（ロシア連邦）で開催されていた日ロ漁業委員会第 30 回会議の折に、水産庁からロシア連邦漁業庁に対し、非公式ながら、この問題の解決に向けた検討要請が投げかけられました。その後、現時点では具体的な進展は無いと聞いています。本件については、水産庁でも引き続き対応していくとのことであり、新たな情報が入れば、適宜提供したいと考えています。